

令和4年度第3回子ども・子育て会議 会議録

日時

令和4年5月26日《木》14時30分～16時

場所

流山市役所 第二庁舎三階 306会議室

出席委員

田中副会長、松田委員、櫻庭委員、矢口委員、長谷部委員、橋本委員、藪本委員、羽中田委員、小澤委員

欠席委員

柏女会長、佐藤委員、伊藤委員、高山委員、松本委員、

傍聴者

1名

事務局

内子ども家庭部長、小谷子ども家庭課長、遠藤保育課長、倉本子ども家庭課子ども政策室長、平尾子ども家庭課虐待・DV防止対策室次長、宮澤障害者支援課長、秋元児童発達支援センター所長、健康福祉部健康増進課岸川親子保健係長、小谷子ども家庭課子育て支援係長、廣原子ども家庭課主査、加藤子ども家庭課主任主事、北根子ども家庭課主事

議題

(1) 第2期子どもをみんなで育む計画の見直しについて

配布資料

- 資料1 アウトカム評価アンケート結果(子ども向け)
- 資料2 アウトカム評価アンケート(保護者向け・自由記述欄)
- 資料3 事業評価シート(重点事業)

議事録《概要》

《田中副会長》

定刻となりましたので、只今から、令和4年度第3回流山市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

本日の会議につきましては、委員14名中、出席委員9名、欠席委員5名でございます。流山市附属機関に関する条例第5条第2項により、会議は、委員の半数以上の出席により成立しますので、本日の会議は成立していることを報告します。

また、流山市附属機関に関する条例第5条第3項の規定により、会議の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数の時は、会長の決する所によるものとされており、あらかじめご了承願います。本日は、会議室に傍聴者の方1名入室いただいておりますので、ご承知おき、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。前回に引き続き、議題「第2期子どもをみんなで育む計画の見直しについて」です。

今回は、「アウトカム評価の結果報告」と「施策の展開の重点施策」についてとなります。事務局から説明をお願いします。

《事務局》

資料1 アウトカム評価結果（子ども）

資料2 アウトカム評価結果（保護者自由記述）

《矢口委員》

今回も回答数が少ないが、子ども向けのアンケートはどこで周知されていきましたか。

《事務局》

保護者向けアンケート同様LINEを活用して周知したほか、各公共施設にポスター掲載等をお願いしました。

《矢口委員》

どのくらいの回答数を想定していましたか。

《事務局》

前回の計画の見直しの際は、グループワークで60程度のご意見をいただいていたことから、同等程度の回答数を期待していました。

《田中副会長》

今回は倍以上の回答をいただいたということですね。

今回のアンケートは男女別の集計はありましたか。

《事務局》

性別欄を設けていないため、集計はできておりません。

《田中副会長》

わかりました。

他にご意見はありますか。

《櫻庭委員》

「どんな場所が好きか」という回答で、学童の割合が少ないことに驚きました。学童が楽しいということが昔はあったのに、このアンケートはそういった様子が見られないため、その点が気になりました。

《田中副会長》

ありがとうございます。

他にご意見はありますか。

《矢口委員》

学童に行かれている方だけではないのでこういった回答なのかなと思っています。前回のアンケート同様、本当に聞きたい方々にアンケート回答いただくための手法は今後も検討すべきと思います。

質問ですが、以前も聞いたWi-Fi環境の整備はどの程度進んでいますか

《事務局》

各公共施設での整備が以前よりも進められているものと認識しております。

《田中副会長》

進められているというのは、市の施策としてでしょうか。

《事務局》

市の事業として、保育を例にとれば研修関係等の整備が進められていまして、児童センターを例にとれば児童館に来られない方へのオンライン支援等各事業で整備が進められています。

《藪本委員》

公園整備について現状をどう認識しているか、課題意識があるかを聞いてみたいです。保育所を増やす中での代替園庭のニーズもあることから、利用者側の整理を推奨するのではなく、市が公園の利用に関する整備を行うことも必要ではないでしょうか。

《事務局》

ご意見みどりの課とも共有いたします。公園の遊具については、遊びの幅が広がる等のメリットがあるものの、安全面を踏まえて設置可否を検討しているのではないのでしょうか。

《田中副会長》

私は公園整備の計画に関わるみどりの委員会にも参加していて、インクルーシブ遊具の導入等の話も聞いています。

《藪本委員》

人口流入に対しての整備が追い付いていないのではないかと危惧しています。ニーズの偏りがあることで密になってしまっているという課題が浮上しているのではないのでしょうか。

遊具を置けない場所を公園と呼べるのかも疑問という所感です。

《羽中田委員》

資料2について、休日保育を希望する声がある中で、どの程度応えられる可能性があるのかを伺いたいです。

《事務局》

各要望に対する実現化については、まずは計画に載っている例えば市の総合計画あるいは条例上の規定等を踏まえ予算化等を検討して実現化を目指していく流れです。

《羽中田委員》

記載いただいた記述への回答は行うのでしょうか。

《事務局》

アンケート個別の回答は行わず、パブリックコメント等を通じて回答する機会は設けていきます。

《田中副会長》

休日保育については、以前から要望はあったと認識していますが、本当にどの程度の需要があるのかが難しいところなのかなと。

《櫻庭委員》

平日も土日もとなると、特に日曜や一時保育を運用するための職員配置といったものを補助金で賄うことは困難と思っています。要望があるのは承知していますが、一事業者だけで継続していくのは難しいのは確かなので、行政との連携が必要だと思っています。

《藪本委員》

休日保育の利用についてはアンケートを行っていたと思いますが。

櫻庭委員おっしゃるように、要望を叶えることで職員の処遇を下げることはあってはならないので、そこについてはご理解をいただきたいと思います。

《事務局》

第2期子どもをみんなで育む計画の策定時にアンケートを実施しており、長期休暇の保育事業の利用希望についてP120で紹介をしております。

結果としては、約8割が「利用する必要はない」と、需要としては少ないものとなっております。

《矢口委員》

アンケートの回答者の裏付けがないといけないのでは。今までも行政に伝えていた中で、出来ているものや出来ていないものって、どう評価してなぜ起きてしまうのかが疑問でした。

《田中副会長》

ありがとうございます。

他にご意見は。

《橋本委員》

今回のアンケートでそこまで踏み込むのでしょうか。前回と今回で紹介いただいたアンケート結果はあくまでデータとして捉えるべきもので、個別の事業についての意見は次回会議の中で指摘していく方がよいのではないか。

《田中副会長》

おっしゃるとおりだと思います。

《橋本委員》

ついでながら申し上げます、第3版を作成するときにアンケートの継続性はそこまで求めなくてよいのではと思っております。継続性という思いもわかりますが、コロナ禍で状況も変わっている中で新しい発想を取り入れるべきだと思います。

《田中副会長》

ありがとうございます。

では、続けて資料3の説明をお願いします。

《事務局》

令和3年度事業評価（施策の展開）について

《田中副会長》

はい。ありがとうございます。

各委員からご意見あればお願いします。

《長谷部委員》

重点課題事業61に関して補足させてください。

市教育委員会では教育環境の充実を図るために個別のサポートファイルを一人一人に配布しています。教育課程における一人一人の状況やニーズに応じたきめ細やかな指導ができるよう個別計画を定めており、令和3年度は市内小・中学校、幼稚園あわせて254冊を発行しました。

また、個別の指導計画作成にあたっては、全校に設置している特別支援コーディネーターによる研修等を実施し各先生の理解を深める取り組みも行っています。

令和4年度からは、スムーズな就学相談を行うために保護者向けの就学説明会も開催し、支援をさせていただいております。

《矢口委員》

254冊というのは新しくということでしょうか。

《長谷部委員》

そのとおりです。

《矢口委員》

この間相談を受けた例で学校の方で対応できていないケースがありまして、学校の先生には特別支援コーディネーターが支援をしているのでしょうか、それとも指導課でしょうか。

《長谷部委員》

特別支援コーディネーターへの研修を指導課が実施し、コーディネーターが各先生への研修等を行っています。

《矢口委員》

就学相談は100名程度参加があったと聞いていますが、理解が難しいという声も聞いておりますので今後どの程度の支援があるのかが心配です。

《長谷部委員》

参加いただいた方々には担当者から個別に電話で状況を伺っており、支援の必要性を含め個別の相談を進めていきます。

《田中副会長》

おそらく支援学校に行かれる方もいると思いますが。

《長谷部委員》

そうした方もいらっしゃいます。

《田中副会長》

特別支援コーディネーターは各校に何名程度いるのでしょうか。

《長谷部委員》

各校に1名配置しています。

《田中副会長》

長谷部委員から、事業に関する補足をいただきました。
他、ご意見ございますか。

《羽中田委員》

11ページの障害児保育がDというのは何か理由があるのでしょうか。

《事務局》

巡回相談と保育所等訪問支援を実施しており、巡回相談については令和2年度までは実績がありましたが、コロナ禍もあり事業所を超えて外部から保育施設を訪問することは見送った方がよいという結論に至り、実施を見送ったためです。また、保育所等訪問支援についても同様に令和2年度は実績がございましたが、コロナの影響もあり申し込みがなく、令和3年度の実績がなかったためD評価という結果となっております。

《藪本委員》

申し込みがなかったとおっしゃっていましたが、コロナ禍でもニーズはあったのではないのでしょうか。保育所等訪問支援に関連した民間事業者との連携も検討いただきたいと提案させていただきます。

《羽中田委員》

実績がなかったからDというのはいかがでしょうか。コロナ禍は特別な状況ではあったものの、原因がどこにあったのかを担当として検討いただいているのでしょうか。

《田中副会長》

先ほどはコロナ禍であったことが要因とご説明いただきましたが。

《羽中田委員》

コロナ禍であったとしても、実施できているものはあったのではないのでしょうか。実績がなければならないというわけではないのですが、コロナ禍だから実績なしというのは違和感でした。

《田中副会長》

質問で、目標値の2というのは2人ということでしょうか。

《事務局》

民間の事業者で実施している分は反映せず、契約数の目標値が2というものです。児童発達支援センターで実施している保育所等訪問支援事業と千葉県で実施している巡回相談事業があり、保育所等訪問支援は各親との契約に基づき実施しており、巡回相談は各保育園等との意向で実施しているものになります。

これらの事業を周知していく中での実績はありましたが、コロナ禍であったことと、あえて保育園で実施せずとも児童発達支援センターを利用する等いくつか選択肢もあったことで契約に至らなかったと思われます。少なくとも困ったままでいるということではなく、ほかの選択もあったことによるものです。

《事務局》

統合保育の話で補足しますと、1名の枠を設けていましたが申し込みがありませんでした。令和4年度は2人の申し出があるという現状です。

《藪本委員》

そもそもの事業の目的としては、障害に対する不安への支援がポイントであって、県がとか事業者がとかの話は行政サイドの話ですよね。実績がなかったことは情報がわかりづらいことも要因の一つであって、利用したいけど情報が無く利用できな

いということも大きいと思います。役所の言葉で説明されてしまうと保護者には伝わりにくい部分もあるのではないかと個人的に思います。

《事務局》

前回の会議でも申し上げましたが、保育所等訪問支援は、平成24年の児童福祉法改正の際にできたサービスで、開始時の申し込みは多く、最近も比較的増えてきてはいましたが依然として利用者数は少ない状況です。こうした制度を利用いただくことで、学校・保育所・幼稚園の受入がスムーズになるものと考えておりますので、制度の周知をしていくとともに、利用拡大を図っていければと思っています。

《田中副会長》

ファミサポの制度についても、どのように利用できるかわからないといった声も聞こえてきます。電話いただければお答えするところですが、子育て中の方にとっては電話することもハードルが高いようで。そうした方々への伝え方も考えなければならぬと感じております。

他、いかがでしょうか。

《藪本委員》

令和3年度は待機児童0ではなかったでしょうか。

《事務局》

令和3年に募集をかけた結果、令和4年4月1日の待機児童を記載したものです。

《橋本委員》

子育ての情報提供のあり方が全般に関わってくると思っています。

先ほど田中副会長から話のあったように、ファミサポをどのように利用すればよいかかわからない方もいらっしゃるのであれば、制度の情報提供の工夫が必要であると感じました。

LINEや子育てチャンネルでも情報は限られているようなので、例えば動画で活用法がわかるようにするとか。

《田中副会長》

ファミサポを紹介するホームページをオリジナルで作ってしまして、他自治体を

みてもオリジナルで作っているところはなかなかありません。動画も昨年つくってわかりやすいものができたと思っていますが十分に伝わっていないのが正直なところですね。昨今のSNS事情に追いついていないところですが、情報発信の手法は課題です。

《矢口委員》

民生委員の平均年齢も高いので、いかに若い世代に関わっていただくかを考えていかなければという意味で同じ課題をもっています。

ファミサポの話も、家庭によって様々な状況がある中で自分の事情や悩みがファミサポ利用のどこにつながっていくかがわからないという部分にコーディネーターといった支援も重要ではと感じました。

《藪本委員》

3ページ10の子育て支援センターですが、目標が3年続いて11としているのは新設しないという意思表示にもみえるので、いかがなものでしょうか。保育所に通う前の声を拾う役割がセンターにあるのであれば、質も求めつつ量も必要ではないでしょうか。

《櫻庭委員》

同意見です。北部地域にほしいといった声も多く聞いておりますので、小さくても整備いただくことはできないものではないでしょうか。

《田中副会長》

児童センターは0歳のお子さんも来たりと賑わっていたりという様子は伺っています。再開発の話も耳にするので期待したいと思います。

他いかがでしょうか。無いようですのでこれで本日の会議を終了いたします。

以上